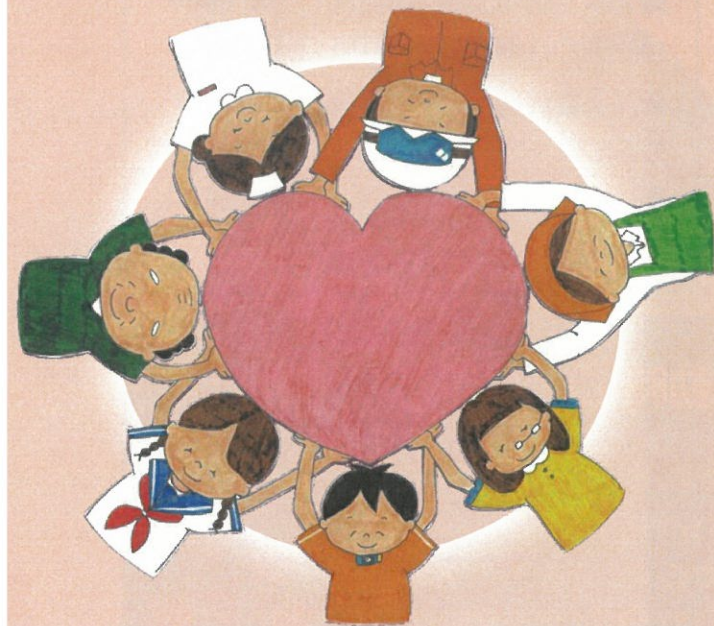


知って欲しい ぼくらのこと ～医療的ケア児の 避難時支援ガイド～



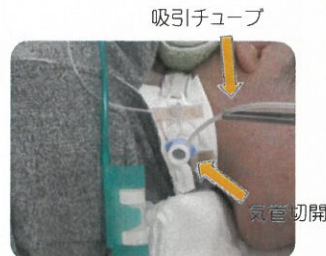
近年、様々な疾患を持ちながらも地域で生活するために、酸素投与や人工呼吸器装着などの医療が必要な子ども(医療的ケア児と呼びます)が増えています。このため、災害時には彼らも地域の方々と一緒に自宅近くの避難場所に逃げるのが予測されます。

しかし、医療的ケア児について一般の方に知られることはまだ少ないことから、災害時に避難者を支援していただく方々に医療的ケアについての情報を提供し、支援しやすくなることを願い、このパンフレットを作成しました。災害時をはじめ日常の場面においてもお役立ていただければ幸いです。

主な医療的ケアの紹介

① 唾液や痰の吸引

口や鼻、気管に痰がたまり呼吸が不安定になるため、口・鼻や喉から気管に開けた穴(気管切開部)へ吸引チューブを入れ、昼夜を通して分泌物を吸引します。



【気管切開から吸引している様子】

② 経管栄養

口から食べ物や水分を摂取するのが難しいため、鼻から胃まで入れたチューブ(経鼻胃管)や腹から胃への穴を開けて入れたチューブ(胃ろう)から、栄養剤や水分を入れます(なお、胃ろうがあっても、入浴などで水の中に入ることは可能です)。



【胃ろうの様子】

③ 導尿

尿が出にくい、陰部から膀胱に管(カテーテル)を入れて尿を出します。おむつや下着をはずしますので、目隠しになる困いのようなものや処置しやすい場所の確保にご協力ください。

④ 人工呼吸器管理

呼吸機能の低下のため、機械で呼吸を補助する人工呼吸器を口や鼻、気管切開部につなげています。機械の作動には**電源が必要**です。また、機械には回路(呼吸回路)が繋がれており、引っかかると外れやすいため注意が必要です。なお、電波を発する機器(携帯電話等)を近づけると誤作動の可能性があるため、注意が必要です。

*機種により異なるのでその都度お尋ねください。



【人工呼吸器を装着している様子】

⑤ 酸素投与

酸素を鼻や口、気管切開部に装着したマスクやチューブを通して酸素を投与しています。酸素は酸素ボンベや酸素濃縮器に繋がったチューブを通して送られますので、チューブが絡まないように注意が必要です。また、酸素は引火しやすいので、火を近づけると大変危険です。



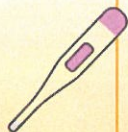
【酸素投与している様子】

これらの医療的ケアは日常的に行われていますが、家族だけではケアが難しい場合がありますので、助けを求めるときにはご協力をお願いいたします

医療的ケア児が避難して来た時 心にとどめてほしい10のこと

体温調整が苦手です

寒いと34度以下、暑いと38度以上になることがあります



火を近づけると危険です

酸素ボンベなどの医療機器を使用していることがあります。



オムツ交換などによって 臭いがする場合があります

通常のトイレを使用できないため、パーテーションなどの目隠しを準備いただければ助かります。また、便の処理等を行うことで臭いが発生することをご理解ください。

医療物品を置くスペースが必要です

生命を維持するための人工呼吸器や、痰を吸引する機器、チューブから栄養を入れるための注射器など多くの医療機器を持って移動しています。



日中夜間問わず、モニターの音や 痰の吸引の音などがすることがあります

状態確認のための脈拍数や経皮的酸素飽和度などのモニターの音や機械で痰を吸う音が1日中する場合があります。



電源確保にご協力下さい

人工呼吸器を動かすには
必ず電気が必要です。



移動時にはお手伝い下さい

骨折しやすい方や、身体を反り返らせる方、自分では介助者を掴めない方が多いです。このため、床におろす場合や車いすに乗るなどの移動時には手伝っていただくと助かります。



身体は自由に動きません

移動には車いすを使用しています。

身体が自由に動かせない重度の障害がある方もいます。このため、ベッドのような車いすなど、本人に合った車いすを使用しています。



骨折しやすいです

骨が細くもろいため骨折しやすいので、身体を動かす時には注意が必要です。

骨が突出している箇所があります

硬い床に寝ると痛いことがあります。痛くても訴えられない方もおり、じょく瘡になりやすい状態です。